

第9回安来市小中学校適正配置審議会 議事録

1 審議会日時 令和5年3月22日(水)

2 開催場所 安来中央交流センター

3 出席者等

(委員) 内田 成人、田邊 憲明、加藤 寛通、恩田 集司、川上 通子、江戸 宣文(欠席)
原 義昭、大西 啓治、奈良井 丈治、中尾 美樹夫、本山 禎彦、北川 正幸、
小松原 克己、作野 広和、米田 健、池田 さゆり、田淵 秀喜、伊達 紗由里(欠席)、
板垣 学、福井 香衣

(事務局)

教育長 秦 誠司 教育部長 原 みゆき 政策推進部長 宇山 富之
教育総務課長 遠藤 浩司 学校教育課長 三保 貴資 地域振興課長 石井 美佐子
学校教育課主査 糸賀 真也
教育総務課係長 青戸 かおり 地域振興課係長 渡邊 悟史
教育総務課主任 岩見 佳奈子 教育総務課主任 森脇 卓哉

4 次第

(1) 教育長あいさつ

(2) 開会

(3) 資料説明

1) 安来市小中学校適正配置審議会予定表【資料1】

2) 安来市小中学校適正配置検討資料【資料2】

3) 安来市内小中学校学級数の状況【資料3】

4) 各地区説明会意見集約【資料4】

(4) 意見交換

(5) 今後の予定

(6) 閉会

5 内容

(1) 教育長あいさつ

第8回の審議会以来約2ヶ月ぶりの開催となる。その間事務局は基本方針の説明会の方を終了した。計52回、のべ1,162名の市民の皆様のご参加があり、意見交換やアンケート調査の実施により、様々なご意見をいただいた。

3月5日には、伯太わかさ会館で、島根大学と安来市の共同研究「安来市における小中学校の存立と地域との関係に関する研究報告会」が行われ、大変示唆に富んだ研究成果のご報告をいただいた。参加者のお1人から、「適正配置の検討がここまで進んでいるとは思わなかった。もっと自治会などで本気になって話し合わねばならない」というようなご感想もあり、徐々に市民の皆さんの関心も高まりつつあるのかと思っている。また、3月20日発行の市報4月号には、この審議会の経過報告を掲載して

いる。

2022年の出生数は、全国で79万9728人という速報値が出ており、予想を超える勢いで少子化が進んできている。審議会においても、会長私案から個々の学校をどのようにしていくのかについて具体的なご意見をいただき、答申に向け審議を進めたく、本日もよろしくお願ひしたい。

(2) 開会

(会長)

3月5日の報告会に関連して、特に詳しく調査を行った布部地区、山佐地区、比田地区を中心に、本夕、布部交流センターで改めて報告会を開く。前回からは更新した内容となっているので、興味がある方は是非ご参加いただきたい。

ところで、地域の実態とその対策との間には大きなギャップがあるように思う。本日私は他県の案件であるが、県全体の地域振興を行う勉強会で話をして、その後は、過疎問題懇談会にリモートで出席した。前者では、市町村の皆さんの5分の1ぐらいからは、人口を増やしたいという声が出た。また後者でも、今年度、社会増をしている地域を対象として調査がなされている。なぜそういう調査を行うのか、状況はわかるが、先ほど教育長から話があったように、出生数80万人という事実と比較すると、とんでもなくギャップがあるように思う。その政策の差分、或いは国民全体の認識の差分が、結果として、地域の疲弊に拍車をかけているように私は思っている。本日も布部地区や、比田地区、山佐地区の、数字上の実態を見ると、非常に厳しいものがあるというふうを感じる。そういう状況の中で、社会のシステムの一つとして、学校の配置をどう考えるかということが、この会議である。おのずと他の分野とも関わりながらの検討が必要となってくる。具体的にどうしていくのかということは、議題の方で、皆様と意見交換をさせていただきたい。

(3) 資料説明

○資料1について教育総務課長が説明。

今後の予定として、4月に第10回審議会、その後に会長から住民対話集会開催の提案があったので、掲載している。教育委員会は、答申を受けてから基本計画を策定するまでに、パブリックコメントを実施するが、審議会としても、答申前に市民の方から意見を伺う機会として、安来、広瀬、伯太の市内3ヶ所において、住民対話集会を開催したいとお考えである。会長が説明をされ、意見交換等を行うことを予定されており、審議会の委員の皆様にも、いずれかの会に同席を依頼されるとのことである。その後2回程度の審議会を開催して答申を決定し、秋頃には、教育委員会として答申を尊重しながら、基本計画を策定、決定したいと考えている。

(会長)

少し前までは、年度内にこの審議会の一定の中間取りまとめをして、それを市民の皆さんに照会することを考えていたが、もう少し検討した後、第10回でおおよその成案を終えて、それをもって5月から6月に住民対話集会を開催したいと考える。

教育長からは再三にわたりこの審議会の答申を尊重するとおっしゃっていただいております、従って、

私たちが審議した内容を教育委員会が受け取ったときに、対応に困るような結果は出せない。であるから、答申に対し諮問する権限は我々にあるけれども、それは一定程度委員会側とすり合わせていく必要があると思う。そして、基本的には答申が尊重され、それを受けて基本計画案がパブリックコメントにかけられるわけであるが、今度はそうなる了一般の方の意見が、その原案を大幅に覆すようなことにはなりにくくなってしまふ。市民の何割かの方が反対されるようなことがあれば可能性はあるが、なかなか個々の意見を反映しにくい。そこで、この5月から6月の住民対話集会において、できるだけ市民の皆さんの意見を拾ってはどうかと、提案するものである。

○資料2について教育総務課長が説明。

第7回審議会では存続重視、地域重視、規模重視の3案が示され、第8回審議会では、そこから一案に絞り込まれた会長私案が示された。今回の資料は、さらに第8回審議会での委員の方との議論を踏まえて示された会長私案であるが、これについては後ほど会長より説明される。

次に、下段の想定されるスケジュールをご覧いただきたい。基本計画が策定され、実施計画に基づき実施となった場合、開校までに想定される期間は、用地を取得してからの校舎建設であれば、9年程度。既存の学校用地での校舎建設であれば、6年程度。既存校舎の大規模改修であれば、4年程度の期間がそれぞれ必要になると考えられる。第一中学校の建て替えに、教育施設整備促進期成同盟会の設立から5年を要した経験からも、ある程度の期間を要することがわかる。

また、教育委員会事務局から教育委員の方へも、この第9回適正配置審議会の資料に基づいて先日説明をしたところであり、さらに本日の検討状況についても、次回3月27日に予定する定例教育委員会において報告する。教育委員会に対しても、審議会と同様に時間をかけて説明を行っている。いよいよ適正配置基本計画の着地点が視野に入ってきた。具体的な場所、時期等は、この後に策定する実施計画に基づき進められることになるが、基本方針に基づくこの基本計画が、その根幹となるものである。ぶれることのない計画の策定を進めていきたいと考えている。

(会長)

前回も会長私案ということで、一つの案を出させていただいたが、前回の議論を経て練り直し、今日改めて私案を提出させていただく。

下段の想定されるスケジュールについては、この度初めて出てきた資料であると思う。

○資料3について教育総務課長が説明。

資料の左側は令和17年度の学級数の状況である。なお、令和17年度とは、今回の基本計画の最終年度としている年度である。まず、小学校17校のうち、現在は複式学級のある学校が8校であるが、17年度には11校となる。また、中学校では一中以外全て、全学年で1クラスとなる。

右側のグラフは児童生徒数の推移の見込みである。令和4年度では、児童1,744名、生徒943名の計2,687名であったが、令和17年度は児童1,152名、生徒608名の計1,760名となり、927名もの減が予想されている。なお、この推計の算定条件は、令和13年度以降は、令和12年度の出生数が横ばいで推移するものとしているので、残念ながら、実際はさらに厳しい数値になると考えられる。

なお、中学3年生と2年生は、令和2年度及び令和3年度生まれの子どもたちであり、令和4年度生まれの子どもたちが、令和17年度の中学1年生となる。この表の推計では208名と記載されている

が、現時点で、令和4年度の出生数は、160名から170名程度と見込まれており、この推計よりもさらに下ブレする可能性が高い。こういった現状を踏まえると、計画の終期である令和17年度だけでなく、その先も見据えながらの計画の策定検討が必要になるのではないかと考える。

(会長)

最後の発言について、審議会の責任としては17年度を完成期として考えるということであったと思う。その先を念頭に置くのはわからなくはないが、先を言えばきりがないので、その点については確認させていただきたいが。

(教育総務課長)

今回の計画の終期は令和17年ということで設定いただければよいと考える。ただ、ここからV字で人数が増えることも想定し難いと思われ、その点は念頭においていただきたく、説明したものである。

(会長)

この先も自ずから類推できよう、ということだと了承した。資料をどう読むかということはあるが、この資料については、これまで提示されたものより新しい数字に基づいているということ、ただし一定の時期以降については、同じ数をもって推計されたということによろしいか。

(教育総務課長)

推計の算定条件に示すとおり、令和13年からは、令和12年の数値が横ばいに推移するものとして推計した。市全体の人口ビジョンがまだ出ていないので、仮置の数値としてこちらを示したものとご理解いただきたい。

(委員)

令和4年度の安来市の出生数は、170人を切るのではと聞いたが。

(教育総務課長)

令和5年2月末現在で出生数146名と把握をしている。3月末を待ったとしても、170人、さらには160人を割り込むことも予測される。

(会長)

意見交換では、こういった数値も踏まえて議論する必要があると思う。

○説明会実施状況(別冊)及び資料4(非公開)について教育総務課長が説明。

各地区説明会の意見集約について報告する。別冊の説明会実施状況については、学校や交流センターの説明会で配布し、ホームページにも掲載してきた資料で、今回提示するものがその最終版となる。計52回、のべ1,162名の方に参加いただいたものの集約である。

アンケート結果より、説明会の内容については、85%の方において概ね理解をいただいた。また、グループに分かれての意見交換会は、我々としても非常に効果的であったと感じているが、参加者からも好意的な感想を多くいただいた。しかしながら、参加者の年代について、20~30代の参加が少なかったことは残念であった。

学校教育において特に力を入れて欲しいこと、養って欲しい能力については、多くの方が基礎的な学力、自ら考え判断し表現する力、自ら考え問題を解決する力、他者との協働、思いやりと回答された。これらは基本方針において説明したところであり、これからの子どもたちに身につけさせたい力、必要な力であり、「生きる力」に合致するという結果となった。

市内の小中学校について現状感じているよいところ、心配なところを訪ねる設問については、学校の規模にかかわらず、良いところも心配なところもあり、現状に全く問題がないとの回答はほとんど見受けられなかった。

学校が担っている役割については、学校、P T Aと地域の方の回答を別々に集約したが、双方の意識に大きな差異はなく、また、提示したそれぞれの役割が重要か否かについても、どの地区においても同様な傾向が見受けられた。回答としては、児童と住民の交流の場、防災拠点として、とても重要であると認識されていることが伺える。

資料4は各地区・学校ごとに説明会の意見を記載したものである。地域の総意ということではないので慎重な取扱としたく、審議会限りの資料としている。

(4) 意見交換

(会長)

初めに私の方から審議会の会長として、状況の見方と、資料2の細かい説明をさせていただきたい。昨年度、教育政策推進会議で基本方針を検討し、本年度からはこの審議会へ議論の場を移して、1年が過ぎたというところである。この2年の中で、新型コロナウイルス蔓延の影響もあるかと思うが、日本全体の出生率が著しく低下した。安来市もいっそう過疎化が進み、そして全市が過疎地域指定になった。市街地も旧郡部の方もどこも人口が減少し、特に子どもの数が減っている。一方、このように50回以上にわたる説明会を開催され、地域からこの課題に関して多くの意見が出てきたところである。私たちはこうした状況を踏まえて学校の適正配置を検討する必要があるが、この2年間だけを切りとって見ても、状況は非常に大きく変化しており、動的に考えていかねばならない。

口頭での確認となるが、私たちが責任を持って適正配置を判断する、その有効期限というか、この審議会の決定が及ぶのは、基本的には令和17年度までと考える。その中で、もし大きく状況が変化して、再考が必要であるという状況になった場合には、今回と同じぐらい時間をかけて慎重に検討しなければならないであろう。そのような条件にしておかないと、途中で簡単に方向転換をするわけにはいかない。翻って今回の決定は、それだけ慎重な判断を要する、重大な決定であるということである。

続いて資料2の会長私案を見ていただきたい。前回の審議会の意見や地域の動向に鑑みて、改めて私案を提案させていただくものである。

まず小学校について、十神は現在の校区の十神小学校。社日小学校、島田小学校も同様である。次の宇賀荘小学校、南小学校、能義小学校については、括弧をつけての再編とした。これについては、地元の方で、1クラスだとクラス替えがない等の理由から、統合して欲しいとは言わないまでも、統合を希望するご意見も多々あることに配慮した。再編するならばこの3つの小学校が1つの小学校になると考えるが、再編はしないということも選択肢にはある、という意味で括弧をつけている。学校によって温度差はあると思うが、ここでの会長私案の提案としては、この3校がセットである。再編であるから、どこかの学校に統合するのではなく、新設と考える。ただし、その時の新設というのは、校舎等を物理的に新設するという意味とは違う。審議会は適正配置を考えるものであるから、校舎をどうするというのは、念頭には置くが、そこは私たちが決定するものではないとお考えいただきたい。

次に飯梨小学校と荒島小学校についても、括弧付きで再編としている。飯梨小学校の学校の規模が

かなり小さくなってきており、こちらもそのまま存続ということも考えつつ、再編するのであれば、飯梨小学校と荒島小学校がセットであろうということになる。ただし、飯梨小学校がどこかに統合するというか、再編するとしたら、あくまで例え話であるが、宇賀荘、南、能義のグループの中に入るとか、或いはさらに違う選択肢等も考えられると思う。

赤江小学校はそのまま赤江小学校と考える。

広瀬小学校と山佐小学校と布部小学校は再編、括弧をつけていない。まずこの3校は、再編して1つの小学校になるという考えである。ただし、布部小学校については、地域から存続の要望が出ている。そこまで明確に存続を希望される地域は、今のところ布部以外聞いていない。よって、布部小学校は括弧として可能性を残しておくということで、今日のところはこのように整理させていただく。

比田小学校はそのまま存続を考えている。仮に旧広瀬町で一つの小学校とした場合に、学校の位置にもよるが、比田から今の広瀬小学校まで通うとすると、かなりの距離がある。中学生は現在も通っているが、小学校の場合は、距離の面からも、或いは除雪等を考えても、比田小学校のままがよいであろうということである。

安田小学校、母里小学校、井尻小学校、赤屋小学校の4校については、セットで再編と書いて、括弧はつけていない。代わりに赤屋小学校の括弧であるが、これは旧広瀬町のエリアという比田小学校に相当するのが赤屋小学校であるという位置付けによるものである。赤屋小学校の存続を希望される場合は、単独校としての可能性もあるということで括弧をつけている。

続いて中学校について、こちらは少しバリエーションがある。

まず第一中学校については、現在の中はそのまま存置、広瀬中学校も現在のままである。

第三中学校、第二中学校、伯太中学校について、第一案は、第三中学校はそのままとして、第二中学校と伯太中学校を統合した新設校を設置するものである。第二案は、第三中学校と第二中学校を統合して一つの中学校とし、伯太中学校をそのまま存置するという案である。これについて、前回の審議会でかなりご意見があったが、事務局とも相談しながら改めて考えてみると、伯太地域で仮に小学校が一つとなったり、或いは赤屋小学校が残ったとしても、旧伯太のエリアで伯太中学校があるということになると、小中一貫の教育、学校は別であっても一貫のプログラムが組みやすいのではないかと考える。一方、第二中学校と第三中学校が統合するというのが、学校の規模的に考えるとよいかとも考えるが、委員の皆様のご意見からすると、二中と伯太中の方が結びつきが強いとのことである。

以上が案であるが、最後に、この中学校の再編案では、赤江小学校から一中と三中に分かれて進学することについては言及していない。前々回には、校区は再編しないという前提であったが、今後の子どもの数の変化を考えると、校区を絶対再編しないというわけにはいかないのかもしれないと思う。ただし、校区の再編を伴うとすると、色々なハレーションが起きるであろう。中学校は5校しかないので、どの案になったとしても色々なご意見が出ると思うが、特に中学校の場合は校区の再編も可能性としてありうると考えている。

先ほども申しあげたように、次回4月の審議会では、この会として一旦原案を一つにまとめる。つまり、資料2に示す会長私案をベースに審議会の案を決める。もっとも、意見交換、対話集会等を踏まえて、再検討はもちろんあり得る。今日のところは、できるだけフリーに意見交換をして皆様のご意見を伺う。何かを決するというよりも、次回の決定の判断材料にさせていただきたい。

(委員)

会長私案で布部が括弧になっている。説明の中で、布部は比較的反対の意見の方が多く、これを尊重しての括弧書きであると言われたが、それではこの審議会は一体何なのだろうかという疑問を感じる。やはりこの審議会では独自のものを出していかないといけない。

もう一つ、布部で反対があるということが広まったとき、例えば、ある学校は再編に向かうという答申が出て、地元が慌てて騒ぎ出して、反対運動が起きるといようなことがあっては困る。審議会としてきちんとしたルールを決めてやっていかないといけないんじゃないかと思う。

(会長)

まずこの括弧は今日の案であり、次回に決定するときは、どういう案になるかは別として、括弧扱いはない。まずこの点はいかがか。

(委員)

そうであるならば、今も括弧はなくてもよいと思う。

(会長)

検討の選択肢を増やすという意味で括弧を付けている。

(委員)

私はその選択肢も不要であると思う。

(会長)

そういうご意見であると承った。それと、反対運動が起こるとい、私はむしろそれぐらいの勢いがあることを歓迎するが、おっしゃるようにルールを決めて向き合うべきだと思う。何度も言うように、審議会は、地域から何か意見が出たから、必ずそれを聞き入れるという立場ではない。私たちは、将来を見据えて、私たちの判断をする。布部地区に括弧を付けているのは、そこで声が出ているという、その積極性に鑑みただけであり、当然十分に審議した結果、残念ながらそういう声を受け入れがたいということになれば、審議会としての判断はするものだと考えている。

(委員)

この審議会ですべての結論が出るように願っている。今反対している地域も、このまま進んだら、将来複雑な思いをされることになるかもしれない。これだけ子どもの数が減るので、我々も何とか説得して、今決断した方がいいと言っているかなくてはならないと思っている。

(委員)

先ほどの意見にも関連があると思うが、一つの案を決めても、実施の具体的な計画を作って、それを実現をさせていくためには、想定スケジュールで示されたように大変長い時間を要する。会長から、状況が大きく変われば、それなりの手順を踏んだ上での見直しはありうるという話があったが、やはり安来市として、学校の適正配置の最終目標はきちんと決めておかねばならない。その上で、その方向に向かっていく具体的な計画の中では、どうしても見直しが必要になる事情も出てくると予想されるから、その部分をどのように織り込んでいくのかは、検討が必要だろうと思う。

またもう一点、小学校は特に急激な人数変化が起こっているところがある。例えば児童数が15名を切ってしまうと教職員の人数を大幅に減らされると聞く。要は、できるだけ早く統廃合の結論を出して欲しいと言われるところもあるのではないか。一定の方向性を出すにしても、実施計画に向けた具体的な優先順位をどのように決めていくのかという点も非常に重要であり、それも含めた議論になればと思う。

(会長)

ご発言の前半部分については、おっしゃる通りだと思う。最終形を意識して決めると。それから、実施計画や優先順位の話については、事務局はどう考えるか。

(教育総務課長)

優先順位については、やはり機運が高まり、地元の合意ができた地域から具体的に話が進み、それが実施計画に繋がるものと考えている。

(委員)

布部の話が出たが、西谷地区も布部小の校区に入っている。この頃自治会長さんと色々な話を進めている中で、どう思われるかと尋ねたところ、実はほとんどの方が統合したいと、西谷は前回もう統合したんだから、そのまま広瀬でもいいという意見であった。このまま布部小を残して、将来人数が減ったからまた広瀬だというのはおかしい、決めるならきちんと決めて欲しいと、全5地区の自治会長さんに伺ったところ、概ねそういう意見であった。布部地区として要望が出ているが、西谷の意見は必ずしもそれとは一本になっていない。また地域には小学生の保護者さん、こども園の保護者さんがわざわざかにおられるが、実際人数が減ってくるので、広瀬に出てもよいという意見であった。

私事であるが、私の身内も広瀬小学校に通っている。下に未就学の子もいるが、その子も含め、広瀬小へ出したい、やはり人数の多いところで子どもを育てたいという親の要望があつてのことである。本当は西谷に帰りたい、祖父母の方も一緒に暮らしたいが、校区の事情があつて帰れないので、大変残念に思っている。何とかしてほしいと息子からも言われた。保護者がどう思っているのかというのは重要である。

地域のことばかりでなく、やはり子どもたちのことを一番に考えてやるべきではないか。西谷はすでに小学校がなくなったが、次のことをやろうという体制を作りつつあり、子どもたちはいないけれど、地域を何とかしようやと動き出している。先日の自治会長さんとの会合の際にも、審議会で西谷地区の思いを伝えてくると言ったので、発言ができてよかった。

一方比田では、若夫婦と一緒に住んでいたけれど、子どもさんの就学に際して、比田小以外の学校を選ばれ、転居されたという話も聞いた。比田地区でもそういうことが起こっているのだなと思い、考えていかなければと感じたところである。西谷同様比田にも、中にはやっぱりもう統合したらいいという意見も出ていたので、これからの保護者や子どもたちのことを考えたら、そういう意見も集約したほうがいいんじゃないかと思った。

(委員)

結局広瀬の学校へとなると距離が遠いので、極端な話、比田からの途中に建てれば一緒にできるんじゃないかという意見も今後出てくるかもしれない。人口が減って、子どもが減って、市として人口を増やす策も考えていってもらわねばならない中で、例えば今の例のように学校の位置を考えることによって何か変わるかもしれないという希望も出てくる。そのような声が大きければ、住民対話集会がこの5、6月だけ、一応旧3市町の3ヶ所とはあるが、それだけで済むであろうか。

(会長)

基本的にはおっしゃる通りだと思うが、市民の皆さんの声、ということについて言えば、これまで数多く説明会を開催し、議論し、意見を集約しながらここに至っており、私たちはこれまでの検討を踏まえて判断をするというステップに進みつつある。対話集会でも、これが最終の機会である、くらいの言

い方をしないと、ひたすら堂々巡りになってしまう。

それから、多くの方々は頑張れば人口が増えると希望をもっているかもしれないが、増えないと考える。合計特殊出生率が日本全体で1.4であり、よほど外国人が流入しない限り増加はないし、仮に今出生率が増えても、100年ぐらいたって人口が入れ替わらないと人口増には繋がらない。私の研究でも、人口減の抑制策はするが、同時に、人が減っても暮らしていける地域づくりこそをしないとイケないと言っていて、それがここまで委員が仰ったことにも通じる。その辺りが正しく認識されていないということこそが重大な問題だと思う。

(委員)

今回初めて出てきた資料もあるが、令和17年度について、令和13年度以降は推定値とはいうものの、安来三中に関しては、現状160人が半分の80人になるという計算で出ており、すごい減り方だという気がしている。会長私案で、中学校について2通りの案が出てきているが、三中は現状市内で最も古く、老朽化が著しい状態。長寿命化計画では80年耐用とのことであるが、本当にぎりぎりのところであり、校舎を今の場所に新築するのか、また基本計画段階では校舎やその位置のことは別というような発言であったが、もう待たなしの状況の中で、次の動きは非常に大きい決断になってくるのかなということ、感想というか実感として感じたところである。

(会長)

会長私案の中には校舎のこと等は具体的には記載されていないが、三中の状況だとか、或いは他の学校でも校舎の問題、校地校区の問題等はあるので、当然そういうことを鑑みて検討する必要がある。次回以降、その辺りの情報をセットにして、検討の参考になるような資料を出さないといけないように思う。もちろん、今までの四つの視点も加味して総合的に判断しなければならないことは言うまでもない。

(委員)

出生率が著しく低下している中、地域のこと、学校のことを熱心に考えておられる方々は、安来市の人口対策に大きな関心を持っておられる。学校再編もその大きな議論の一部であって、ただ再編案を示すだけでは、地域に対する説得力を持たないように思う。例えばある小学校が統合した時に、保育所は、学童はどうなるのか、そういう部分にお母さん方は敏感である。若い世代の流動化が非常に大きな勢いで起きており、より便利なところ、住みやすいまちづくり、という視点を持っていないと、地元だけでなく、安来市からますます人が離れていくのではないかとその恐れがある。

アンケートでは、学校教育で特に力を入れて欲しいこととか、現在の学校に感じていることが調査されている。これらは非常に大切なことだと思うが、皆さんが関心をもつのは、やはり地域との関わり、即ち、校区を広げて既存の学校なくすことが定住促進や活力のある地域づくりに逆行し、人口減に拍車がかかるのではないかと、学校の適正配置問題の前にまず人口対策少子化等が優先ではないかというような不安に対する答えである。先日の共同研究報告会で会長から紹介があった、地域と学校が溶け合う益田市の真砂小学校の例は、大変示唆に富んだものであったと思うが、この再編案ではそういった選択肢はなく、このスケジュールの通り議論を進めて、学校の統合ということだけで結論を出すのは拙速なのではないかとも思う。

(会長)

おっしゃることはその通りであり、またこの審議会においても、学校が地域からなくなれば地域は

衰退する、そして衰退は人口減少を加速させる、とはっきり言ってよいと考える。その点についてはすでに共通認識を得ているものであるが、その上でなお、様々な教育的観点から鑑みると、再編もやむなしというような議論の流れになってきている。したがって、A案という、全ての学校を今のまま存置するという案も前提に置いて、熟考した上での今日の私案である。

おそらくご発言の趣旨は、そういう再編だけの結果を出す、或いは教育面だけの結論を出すに止まらず、地域づくりとか地域振興とセットで答申すべきということかとは思いますが、審議会は条例に基づいて設置され、諮問に対して回答するという重要な責任をもつものであるので、今ご発言いただいた内容も当然十分に踏まえて、検討していると自負している。また、安来市でも総合計画、それから総合戦略、人口ビジョンが作られているので、それは当然並行してやっていくということなんじゃないかなと思っている。

(政策推進部長)

市としても、当然ながら人口対策を行っているところである。何回かご説明させていただいたが、安来市まち・ひと・しごと総合創生総合戦略という計画に基づき、例えば女性の定着を図っていこうということで、結婚のための支援、出産子育てのための支援を行っている。また、魅力のある雇用の場を創出するというところで、働く場としての市内企業の支援、或いはよそからの誘致企業の対策ということも実施している。実際に先日、松江の方から新しい企業さんに進出をしていただいた。少しずつではあるが、実績も上がっている。市民の皆様から見て、まだまだ結果が出ていないと思われるかもしれないが、市の行政のあらゆる分野で精一杯の取り組みを行っている。

また地域振興については、交流センターを核とした地域づくりのあり方検討において、例えば学校がなくなったとしても、今ある地域で、地域の皆さんがそれぞれの特色のある地域振興をやっているという方向性を出したところである。さまざまな取り組みを進めているので、ご理解をいただきたい。

(教育部長)

人口対策についての答えが盛り込まれないといけないのではないかというご意見はかねてより繰り返していただいているところである。ただ、具体的な人口対策をこの計画に盛り込むというよりは、先ほど政策推進部長が申しあげたように、人口対策、まち・ひと・しごと総合戦略の方で取り組んでいきたいと考えている。また令和5年度には、この総合戦略の改定が予定されており、新たに取り組む人口増対策について盛り込み、新しい人口ビジョンの数値を出していくことになっている。

(委員)

赤江小学校が一中と三中に分かれるという話が結構出ており、どちらの学校に通うかというのは非常に大事なことだと思いながら聞いている。数字を見ると、中学校は圧倒的に一中が多く、意見の中でも、クラス替えのこと等も含め、できるだけたくさんの子どもの中で学ばせたいという考えが多いようである。例えば多いところから少ないところへ少しずつ編入していくということも考えられるかなとこの数字を見て思った。子どもの数はどんどん少なくなっていく方向であり、どこかでその機会を、とすれば、今回赤江小学校をどうするかというところは、重要な判断ポイントだと感じている。

(会長)

今までそういったことはあまり想定はしていなかったが、中学校の方を見ると、確かに色々考えざるを得ない。三中は、私から見ても、国道沿線エリアの中で人数の減りが著しい。山間部は分母が小さ

いから、人数が減って極端に小さく見えるけど、沿岸部も似たような形で減少しているということを認識する必要があると思う。特に三中エリアで言えば、団地が古くなっていることが大きいと推測される。

(委員)

と同じような話題になるが、適正配置審議会が始まってから周りの方、特に保護者やPTA役員経験者としばしば話をする。外から見ていると、赤江が分かれるのは不自然だと思っていたが、今回の説明会などで、地域やPTAの方からの意見や、実際自分が話を聞いてみても、赤江が今の区域で分かれるのはもう自然なことで、受け入れられているという声も結構あった。むしろ、一中に行きたいという声は、少なくとも自分の耳には入ってきていない。

飯梨と荒島については、荒島と飯梨が一緒になったら、という話をする、しょうがないだろうなという言葉が荒島でも飯梨でも出てくる。むしろ話題になっている布部のように、飯梨地区で、飯梨から小学校をなくしてはいけない、というような盛り上がりがあったら興味深い、飯梨の方は、いずれ三中で荒島とは一緒になるから、小学校のうちから一緒になってもかまわない、というような雰囲気があるようだ。荒島からすると、荒島と飯梨が仮に合併するとしても、地域の人たちは、地理的に荒島から小学校はなくならないだろうと考えている。

荒島と飯梨が合併するならば、多分荒島小学校に飯梨小学校の子が、単純に言えば通うんだろうと思うが、逆に言えば、新しい学校を飯梨地区に作ると言われると、猛反対が出ると思う。ただ、今回荒島や飯梨は三中校区で一緒なので、ここから先はこの審議会の範囲ではないかもしれないが、三中が初めからあの場所で新築をして、飯梨小と荒島小が同時に、小学校から中学校まで同じ場所であってもいいのかなと思ったりはする。

(会長)

それぞれの具体的な案、学校の位置或いは建物の話にも、言及していただいてもよい。

(委員)

広瀬地区の話になる。先ほど布部地域の方から学校を残して欲しいという要望があったという話があったが、私の聞くところによると、その中に保護者が入っていないように思われる。というのも、現役の布部小学校のPTAさんからは、交流センターを主体とした地域の方とは反対向きのご意見を実際聞いているからである。

一方山佐は布部とは逆で、まだ行動には出ていないが、保護者の方にちょっと強い思いがあるようだ。そういった、地域と保護者との温度差が非常に大きいなと思っている。

比田は今、案でいくと残ることになっているが、保護者の方からは、取り残されたなあという一言もあった。それはどういう意味か、マイナスの方なんだろうと思うが、比田の中でも、地域の方、保護者の方の討論会など、もっと話す必要があるのかなと思っている。

今後の予定のところで住民対話集会を5、6月に、市内3ヶ所ぐらいでという話があったが、広瀬地域に限っては、ぜひ、布部、比田、山佐それぞれでやって、もっと両者が合意形成をしないと、どちらになっても絶対後悔するんじゃないかなと思う。まず、地域交流センターを主体とした役員さんと、現役の保護者、またはこれから保護者になる方であろう方を交えて、もうちょっと議論を深めていったほうがいいと思う。本当なら自発的な討論を進めてもらうのが理想で、布部地区こそ地域は盛り上がっているのかなと感じるが、現実にはなかなか難しい面もあるだろう。この対話集会とか、音頭取りをし

ていただいて、機会を作っていただきたいと思っている。

(会長)

まず、地域の状況について、私も今おっしゃったような状況は聞き及んでいる。それから、集会は本当は地域でやってもらわないときりがない。広瀬地域に限らず、他も本当は同様であるが、場を設定して、地域の皆さんでやってもらうことはできても、公式に我々が乗り込んでというのは、実際にはかなりの負担があるだろう。また、例えば今日私どもが布部の交流センターで、布部、山佐、比田を対象に報告会を行うが、おそらく地域の人だけで、保護者の方々は来られないだろうと思っている。そういうところが問題だと感じる。会長が行くのだから、意見があるならば、面と向かって言うて欲しいが、その場では多分言われぬ、しかし、私案を出すと、内部では色々な思いや不満を言われるようだ、ならば一体どうしたらよいのかと、悩ましい。

(委員)

保護者の方が参加が少ないというお話であるが、赤屋地区は、若いお母さんたちからどうやって意見を聞こうかと、この一か月で、交流センターに行ったり、学校に行ったり、こども園に行ったりして話をしたところである。若いお母さんたちは、日中は仕事をしておられ、夜になると子どもを見てもらえない、そのために、説明会に行きたかったけど行けなかったと言われる方もあった。ではいつがよいかと聞いたら、例えば保育園で預かってもらえる日中がかえって行きやすいかも、ということであった。保護者さんがどうやったら時間的に出てもらいやすいかというのも一つ考えないといけないかなと。

(会長)

最大限丁寧には声は聞きたいと思うが、今委員がおっしゃったことは、地域の合意形成に我々が踏み込むのかということになり、関わり方が難しい面もある。趣旨はわかるので、何かいい形でできればいいと思うが。

(委員)

小学校の保護者に関しては、まだ先のことで、我が子の代では関係がないんじゃないかと思っている方もあるようだ。我が家もまだ子ども園であるが、そのぐらい小さい子を抱えてる保護者の方が、統廃合した時に子ども園は、学校は、どうなるのかとか、その辺を気にしていらっしゃったり、アパート住まいの方であれば、学校の配置によってどこに家を建てるかというのも検討の余地が生まれてくるのかなと思ったりする。小学校の保護者の皆さんもちろん大事であるが、保育園とかそれぐらいの若いお母さん、お父さんにもお話をもっと、聞くべきなんじゃないかなと思う。

(会長)

先ほどもご意見があったところであるが、こども園とか児童クラブの配置等については、事務局から説明があったと思うが、改めて整理をしていただけないか。

(教育総務課長)

こども園については健康福祉部子ども未来課が所管をしている。先般我々が布部地区で適正配置説明会を行った際、併せて布部の認定こども園の存続について、所管課が説明を行ったが、健康福祉部においても、一定のルールをもってこども園を設置運営している。また放課後児童クラブについては、市内17クラブを開設している。児童クラブがないところが4校区あるが、学校再編に伴ってどのようにしていくのか、学校のある場所だけで行うのが児童クラブではないと考えている。従前の場所でも引

き続き運営していただけるのであれば、放課後、学校から地域に戻ってきた子どもたちの面倒を見ていただけるような運営方法もあろうかと思っている。

それから未就学児の保護者の話が出たが、教育委員会が行った、保護者を対象とする適正配置説明会では、小中学校の保護者はもとより、こども園にも案内を配布し、参加を募ったところである。数名程度のご参加はあったものの、その方々のご意見としては、率直に言えば、学校に子どもを通わせていないので、まだ愛着も何もなくよくわからない、今言われてもぴんとこない、というものが多かったように思う。やはり自身の身に降りかかって初めてそういったところが考えられるのかと感じたところである。

(委員)

過去の会議で、会長の方から校区はちょっと横に置いといてという発言があったと記憶しており、これまであまり話はしなかったが、再編をされる二つの学校の校区はそのまま一つの学校の校区となるのだろうか。逆に言うと、荒島と飯梨が一緒になった時に、新しい校舎が建つのか、どちらかを使うのかによって、通学する距離も違ってくるだろう。例えば飯梨小校区の古川地区の人の中には、広瀬に行きたいという人もいるようだ。要するに、新しい学校の位置はどこになるのかわからないので、古川から仮に荒島小学校までの距離となったときに、バス通学ができるかどうかなど、具体的な先が見えない。最終的に括弧が取られて提案するにあたっては、校区なども検討の視野に入れた上でないと、不安を感じる方もあるだろうし、最終の統一点が17年ということだと、自分の子や孫はもう関わりがないと、あまり当事者意識をもって見てもらえないこともあるだろう。ある程度こういう方向だという話を公にして、それに対する反対意見をどんどん言ってもらいやり方も一つの手法なのではないかと思う。

(会長)

校区の話はおっしゃる通りで、校区を均して検討しはじめると選択肢がものすごく増えるから、基本校区は現状の単位という前提の上で検討しようと考えていたが、特に中学校辺りを考えると、必ずしもそれだけは言ってもらえないという流れになりつつある。先ほど赤江小学校の中学校校区の話題も出たが、そういったことを検討することも選択肢としては否定できないかと思う。ただ、私自身に何かイメージがあるわけではない。

それから、今日かなり具体的なご意見が出てくる中で、校区、すなわち通学区域と、再編する学校をどこに置くかによって、だいぶ考え方が違うということが浮かび上がってきたので、少なくとも次回議論する場においては、地図等を用いながら検討していただく方がいいだろうと考える。

最後に、今日の段階ではまだ会長私案であるが、次回は審議会の案として決めていくので、当然括弧はない。基本的には、審議会として自信を持って、この中できちんと合意を経て、出していく必要があると考えている。これまでのところで事務局の見解はいかがか。

(教育総務課長)

色々ご意見を頂戴し、大変ありがたい。その中で一点、多いところから少ないところへの校区の線引きの変更といった話があったかと思う。従来から我々は、適正配置は市内の学校の人数比を単純に平準化するものではないと申しあげてきた。あちらの校区をこちらの校区に変えたら、というのは、ある意味自然な発想かもしれないが、当事者の立場になった場合どうであろうか、既存の学校がそのままあるのに、あなたは今年までA校区で、次年度からはB校区へ、ということが、果たして受け入れら

れるのかどうか、私たちが非常に懸念するところである。よって、あくまでも再編の対象となったところ、先ほどの古川地区の話があったが、ごく小規模な地域でそういう声があるのであれば、それなりの対応が必要になることも考えられるが、我々事務局側が、平準化の名のもとに、学校を残したままで校区の線引をただ変えることは、現実にはなかなか難しい、よろしくないと考えている。皆さんのご自由な意見交換の中で、反対するような言い方になり申し訳ないが、その辺りはご了承いただきたい。

それからもう一つ、ハード整備の部分については、安来市の財源的な体力の問題もある。令和17年までのところで、何校新設校ができるのかということになると、1校が限界ではないかと感じている。あとは大規模リフレッシュ等で当面の間は対応するような流れになるのではないかと。ただし、当然これらは決定事項ではない。色々な意見が出れば、それに対応して市全体の計画の中で、また話が進んでいくと思っている。

(会長)

校区の話については、全てフラットにして線を引き直すことはしないというご回答であった。

(委員)

小学校の方は括弧がなくなるということでイメージができてきたが、中学校は、ちょっと先になっていくと、一中以外は全て、おいおいに1クラスになっていく。会長私案で、中学校については2案あるけれども、新設校が1、2校しか難しいだろうという話になってきた時に、一中ともう1校みたいなことになるとすると、完全に場所を考えて建てないといけない。この辺りのことについては、どの段階でどういうふうにしていったらよいか難しい。小中トータルで考えたときに、段階的な統合などはできないのか、最終的にこうするというのは出すけれども、それを一斉にするのか、できるところからやっていくのか、その辺りを考えると、中学校を段階的に考えることができるのではないかとこの気もしている。

(教育総務課長)

あくまでも令和17年度をゴール目標としていただき、あとは段階的に、という再編の仕方も当然ありだと思っている。

(会長)

委員のご意見は案自体を段階的に作ってはどうか、ということだと思う。完成年はこちらだけど、その手前にこういうステップを踏んでいく、というような作り方の可能性はないのかというご意見。

(教育総務課長)

説明会では、段階的な統合となった場合に、例えば4校一緒になる計画のところ、3校はすでに1つになっている、あと1校が後から来るとなったとき、その1校の子どもたちは馴染みにくいのではないか、そういったお声も保護者の方から聞こえたところであるが、規模や状況に応じて、段階的な再編というのは、当然我々も視野に入れている。具体的な方向が定まってくる中で、審議会の皆様からも段階的な移行というご意見があれば、組み入れていただければと思っている。

(会長)

紹介されたようなご意見もあったし、案じたいを段階がわかるように作るというものではないにせよ、段階的な再編の可能性を否定するものでもないということで、確認したい。

(委員)

先ほど事務局から、新設校はできても1校という話があったが、そうすると、この再編に該当する、

例えば小学校の地域の人は、既存のどちらかの学校を使うということになると、相当な抵抗も予想されるし、両方の距離の中間が一番いいという声もあるかもしれない。よって、地域に話をする場合、どちらかを使う、使わない、新しく建てる等、具体的な話をして意見を聞かないと、本当の考え方が出てこないんじゃないか、地域の納得は得られないんじゃないかということも思った。その辺りをはっきりしないと、絵に書いた餅になりかねない。

(会長)

審議会としてトータルで考えての決定であるから、市としてそれは尊重されると信じている。それより、実施計画が出ないと納得してもらえないのではないかとのご意見であるが、この審議で、どこまで具体的に出すかというのはしっかり考えたいと思う。宿題にさせてほしい。

先ほど、他の委員からのご意見においても、具体的な見通しが地域の意見に影響するのではという声があったので、少なくとも次回には、より具体的に案を出していければと思う。

(委員)

諮問に対する答申自体は、こういうふうに再編したり、統合する、ということではいいが、それを導き出すための議論の中身としては、再編した場合に、例えば、校舎、ハード的なところは新築でいくのか、既存のところを改修して使うのか、その辺りの考え方だけは示しながらでないと、今後の実施計画に繋がっていかない。併せて、再編した場合に通学方法はどうするのかということも含めて話をしていかないと決められないだろうと思う。

具体的に言えば、伯太の小学校を全部統合すると言った場合に、現在の伯太中学校を統合小学校にして、中学校は別の所に二中なり、三中なりと一緒にして建てるというような、具体の方向性のある程度考え方として出しながら議論をした上で、最終的な答申案をまとめていく必要があると思うので、通学についての検討と併せてお願いをしたい。

(委員)

会長の説明の中で、宇賀荘と南と能義を再編するかもという話があった。説明会では、やはりクラス替えが必要だという意見が住民の方からも出ていたとのことであるが、その説明だと、クラス替えができなくなったらどんどん再編していくという、一つの基準のようなものができていきそうな気がする。

(会長)

基本方針ではクラス替えができるということを述べ、基準というか、基本的な考え方は出している。ただし、中山間地域においてはその限りでないし、また、審議会での整理では、二中校区は一応中間地域に分類しているから、単独もあり得るということになる。そこはあえて玉虫色になっている。

(委員)

小学校は、先ほど会長私案で括弧が取れるということなので、布部と赤屋の括弧も取れて、比田も含めてもらうといいかと思う。中学校は、伯太と二中か、三中と二中かいうところを見ると、距離的なものもあるので、伯太と二中と一緒にの方がいいのかなと思う。もっと進むと、広瀬と三中というようなことも考えられるんじゃないかと私は思う。

(委員)

最低限言われたように、新築か改修であるのかということまでの状況はつけて話を進めたほうがいいと思うが、あまり状況にこだわると、この審議会としての答申が出せないのではないかと。

中学校については、何回もお話をさせていただいたが、二中は伯太中と一緒にの方がいいというのが私の意見である。

(委員)

小学校は、説明会に来られた方が限定されていたり、二中は説明会はなかったが、PTAの会の時にアンケートをとってはどうかという意見もあり、説明会に出られないのであれば、アンケートをするのも一つの手ではあるのかなと思った。

二中の方向性、三中と伯太中とどっちなのかという点についてであるが、やはりこれは場所が非常に重大な問題になってくるといった感じがしている。それによって、住民、保護者の意見も分かれてくるのではないか。

(委員)

校舎の話が出ているが、例えば二中の場合は私案では新設とあるので、伯太中なり三中なりと統合すれば、既存の中学校の校舎が空くという可能性がある。先ほど、複数の小学校が一緒になるとしても、どこかの小学校へ行くというのは受け入れがたい、でも例えば二中校区であれば、いずれ皆が二中へ進学することになっていた訳なので、空いた二中の校舎を統合した小学校の校舎として使うという提案があると、もしかしたらすっきり受け入れてもらえるかもしれないと思う。

またアンケートの報告で、20代の若い方々の参加が少なかったとあったが、実際は10年も経てば、その方達が保護者になられ、そのお子さんたちが通われるわけである。まだピンと来ないというご意見はごもっともであるとは思いますが、説明会に来られることが難しいのであれば、今は色々な周知方法があるので、メディアで見れるとか、ホームページとか、見る機会、知る機会を増やして意見を吸い上げるのも手かなと思う。

それから、先ほどご発言があったが、例えばアンケートをとって結果に反映させるとか、もし可能であるならば、私も教員という立場なので、教える側の感じていることを伝えさせてもらい、判断材料の一つにしてもらうのもよいかもしれない。小さい中学校だと、どうしても1教科に1人の先生しかおられず、その先生が全学年全クラスの教科を担当するとすると、相談もしづらかったり、知識や情報のアップデートもしづらかったりする。もちろんメリット、デメリット両方があるが、色々な立場の意見を聞いてもらい、再編を受け入れてもらうための材料にさせていただくということもできるのかなとしたりしている。

(委員)

先日、所用で布部の方に行った際、伯太と比べると何が違うかなと考えた。広瀬は観光地もあるし、土地も広いので、伯太の奥に住んでいる私から見るととても魅力的に感じる。もし小学校がなくなるとしても、加納美術館や医院もあるので、すごくいい地域だなと思う。

また、先日中学校のバレーボール大会があった。今どこも人数が少なく、三中は一中と合同チーム、伯太は人がいないので小学生が入り、二中はぎりぎりでやっていた。ある二中のお母さんが、二中と伯太中と一緒になるって聞いたから、早くバレーボールも一緒にしたらいいのに、と言っておられた。中学生にとって、部活動がもつ意味、やりがいのようなものはすごく大きい。実際伯太でも、部活動を理由に市外の学校に行く子も増えてきている。人が多くなると、部活動の選択肢も考えていけるので、中学校は早く大きい学校を作れるといいと強く感じた。

また、赤屋地区の様子について、先日までは赤屋は残るということであつたが、今見ると今度は再編

という方向である。本来こちらから赤屋の住民説明会のようなことをお願いすべきであろうが、なかなか難しいので、市の方で企画してもらおうと、皆さんすごく関心を持って行かれるのではないかと思う。伯太全体ではなくて、赤屋地区の範囲で開催した方が、物理的な距離のことも含め、たくさんの方が集まるように思う。是非お願いしたい。

(会長)

今日の議論を私の方で整理すると、一つは、本日いただいたご意見を踏まえ、次回は会長試案ではなく、審議会原案を整理する。その際は、学校の位置、施設等も含め、できるだけ具体的な情報を提示するというを確認させていただく。

二つ目として、情報発信の必要性について。これはずっと発信し続けていると思うが、市全体としてもっと機運を高める必要があると感じる。先般も伯太の報告会で、学校がなくなるかもしれない、これは大変なことだ、そんなこと一つも聞いてなかった、とおっしゃる方があった。もう2年間議論しているがこういう現状である。地域の実態はわかるが、だからこそいろいろ、あの手この手を考えないといけないと思う。

3点目として悩ましいのは、地域内での合意形成をどうするのかということである。委員の皆さんのご発言をお聞きしていると、市の方で場を用意して欲しいというようなご意見であるが、それは、これまで実施された何十回かの説明会であったと私は思う。いろいろと揺れ動くような地域、つまり、括弧扱いとなっているようなところについては、何らかの対応はしたほうがいいのかと思うが、全てを対応するというのは難しいのではないか。終点を決めていて、時間が限られているので、審議会としては基本的にこの日程で行かせていただく。聞いていなかったという声は大なり小なり出るだろうが、できるだけ耳に入るように、ぜひ委員の皆さんのご努力、ご協力をいただければと思う。

5. 今後の予定

第10回会議：未定（4月下旬で調整予定。）

6. 閉会